

## 「GMO：振り返り場」会場参加者の声：

◇ 当時・思い出深いこと ◆ 質問や意見など ◎ 質問など

2010年3月13日（土）13：15～17：15

- ◇ 2003年はまだ小学3年生でしたのでよく覚えておりません。危険だという話は聞いたことがありますが、ほとんど無知の世界です。
- ◇ 2003年の思い出：初めて聞く遺伝子組み換え作物及び食品・・・に拒否反応を感じ、学ぶ必要性を感じた年だった。
- ◇ GMイネ試験栽培について当時は知らなかったか、小耳にはさんでも聞き流していたかのどちらかです。現在実質的同等性という概念に共感しつつも、論文の中でそれを疑いたくなるような記述を見ることもあり、まだまだ理解が必要であると感じました。
- ◇ 2003年2003年5月はオーストラリアでファームステイをしていました。ちょうどこの頃、種（タネ）の自家採取などに関する勉強をしており、大企業が種子を独占し、主の多様性をおびやかしている現状を知りました。帰国後GMに関する講演があったことを聞き、日本でも何か大きな事が起きている！と思いました。ここからGMに関する講演会などに足を運ぶようになりました。
- ◇ 2003年、自家採取や種子の多様性の大切さを知ってもらうためのカンタンな冊子を作りました。学生で無知なところもあり、この冊子を送った生産者やタネ店から「F1というのがあることを知ってるか？」「すべて自家採取はむずかしい」というお声もありました。そのことは十分承知の上で、大企業が種子を独占するということが広がると、種子の多様性はもちろん、農家がタネを選択する権利、伝統品種の減少、食文化の多様性も失われることにつながるのでは・・・と考えてしまいます。日本では起こってほしくない。
- ◇ 思いで？深いことは多々ありますが、「青いバラ」が誕生して新聞記事に取り上げられた時・・・。研究のためなのか。記事内容は忘れてしまいましたが、これを読んで誰が買うのかなあ・・・どこかで売られるのか？？疑問がいっぱいでした。
- ◇ 2003年8月、服部真澄著『GMO』という本を読み、夏休みの読書感想文を書いた。「知らない」というのはこわい。（GMOが）社会に影響を与える。
- ◇ 当時。反対の立場から、研究者の詳しいGM技術の説明や、植物の中でも身を守るために出す毒がある等、単純に○×がつくものではないと感じ取っていらしたので、試験栽培の説明会の異常な雰囲気も感じるどころがあって、試験栽培はやってみる必要があったと思っていました。
- ◇ 思い出深いこと。知らないうちに栽培されていた事が2度もあって、合意がないままに見切り発車したことはGMに対する印象を悪くしたと思いました。またロシアの女性科学者の実験に多くの市民が集まったときの、その結果に対してなぜあの実験の不備な点を指摘する等の行動が取られなかったのか。科学者の怠慢だと思いました。
- ◇ 当時。2000～2005年、理科教育としてGMOを取り上げた。高校生に対し遺伝子工学でGMOを検出する体験実験を実施した。「設計されたものは検出できる」
- ◇ 国が安全と認めても、GMOの種子を教育用に分譲してくれなかった。農試など？

- ◇ 北農研の説明会の場にいた。もめた場面、センター側がかわいそうだという思い。かつての原発論争を思い出した。この議論を見届けたいという（無責任？）好奇心。それ以来のかかわり。
- ◆ 昔のやり方に戻してと言っているのではありません。でもそれに近い農法で農業を始めている若者もたくさんいます。そういう人たちの意見も聞きたいです。若くて頑張って採種してコツコツやっている人のお話も聞きたいです。
- ◆ なぜGMと多様性は別問題と言えるのですか。詳しく知りたいです。作物栽培と動物・生態系・植物・・・たべものとは別なのですか？では多様性って何ですか？GMは多様性がないということですか？素人には分かりかねます。
- ◆ 大企業の種子独占とトヨタの大企業の発展をひとくくりにされては困ります。それ以上つつこみが入られません。今の議論は命の源となるもの話です。日本でそういう企業はあるのか。これから作ろうとしているのか。モンサントがしていることは農家や国民にとってどう映っているのか。認めているならなぜなのか。批判があるならなぜそう思われているのかそういうド素人の率直なギモンにきちんと答えていただきたい。ただ安全だから、じゃ納得できません。
- ◆ 「知らない間にGMを口にしている」のだから、「作らせない」のはおかしい、というのは・・・？消費者はどう考えているのでしょうか。今食べている分は、(GM)は仕方ないとしても、これ以上増やさないでほしい。自分は安全なものを選びたい、という思いを持っている人、たくさんいると思います。消費者は難しいことは分かりません。昔ながらの農法で安全に作れるならそうしてほしいと考えます。
- ◆ 遺伝子組みかえ種と除草剤などはセットになっているため、企業の囲いこみの戦略に組み込まれてしまうことに危機感を感じる。本当に農家さんにとってメリットがあるのか？
- ◆ 消費者の持つ多種多様な不安感をどうやって払拭するのか？払拭することはそもそも可能なのか？その情報伝達の「手段」が存在するのか疑問です。
- ◆ 公衆への伝え方（という側面から）。成功なら新しい技術を受け入れられる。例、遺伝子治療・自動車も。失敗なら、原子力。中間（がGMOで）、GMOは成功例を示せないできた。
- ◆ 芝池さんスピーチに対し：①交雑実験結果、対数でとると直線になりますか。②標準偏差が大きいのですが、これが本質ではないでしょうか。
- ◆ 交雑試験の目的を分かりやすくしないと「GMは毒であるのでその拡散を防ぐ」ための研究と考えられる恐れあり。そうなのですか？
- ◆ 山口先生の話が良かった。目を開かされた。
- ◆ 生産者と消費者との関係。テロワールの考え方が必要。演出ではなく、より自然に近い形での出会いが必要。→人間関係。
- ◆ 農薬に対する帰化植物の耐性は、植物自身の中で遺伝子の組み替えを行っているのでは。（人間のもくろむ前に） その様に理解すれば、遺伝子組みかえに対する考え方が少し変わるのでは。

- ◆ レイチェル・カーソンの世界の異次元版としての GME 問題ではないのか
- ◆ 交雑のリスクマネジメントは何を目的にしているのか。市民に伝わっているのか。
- ◆ 地球が絶対的な食糧不足の時代になった。その中であって日本あるいは北海道農業はどうあるべきか？そのために遺伝子組換え作物はどう位置づけていくのが良いのか？
- ◆ 日本の耕地面積で日本の人口を養えるのか？→遺伝子組換え作物を使わないと十分な量が収穫できないのか？
- ◆ 安全の定義が不明確。特に生態系への長期的視点が不明ではないか？未来の（子孫）たちは議論に参加できないのに負荷を与えかねない
- ◆ 「国が安全」と保証した事に（ついて）信頼できるのか？（国民はいつも裏切られてばかりと考えている）
- ◆ 科学者は自分のスタンスが正しいという前提で話しがちではないか？スタンスというのは、「同じ労力でたくさん生産できるのは正しい事だ」的な価値観のこと。実はこの価値観を明らかにした上で、その価値観を含めて討議しないと成立しないのでは？
- ◆ GM作物が必要である事が説明されているのか？すでに食べているからどんどん作っても良い、というのは、説明になっていない。
- ◆ 消費者が漠然とした不安を持つのは、情報が不足しているからではないか？消費者を安心させるための情報公開が本当に為されているのか（政府は隠していると思っている）
- ◆ 危険かもしれないと、聞こえてくるだけで買い物をする時に、組みかえ食品をさけてしまう。双方の意見を興味のない人にも伝えてほしい。
- ◆ GM作物がないと生産できないのか？今、現在の栽培法でなり立たないのか？ 今後を考えると、少なからず導入が考えられる技術だと思うので、知っておく必要はある（地域で栽培するしないは別に）。ただ、交雑以外にも生物の進化によって、それが意味をもたないようになると大変なことに。2003年はずっとの学生でした。
- ◆ マスコミは、消費者が不安に思う記事を出しておいて、その不安に対して応えるような記事も同時に（可能な限り）出すように、なぜ研究者の側に申し入れしないのですか？不安な情報は、しとうとゆえ、消費者のさらなる不安をつのらせます。
- ◎ 質問：GMOを作付けして収穫後に圃場に残った生産物が、次年度の作付け時に出現することはあるのか？あるとすれば、次の作付け（別の作物）に影響はないのか？異物混入等の心配はないのか？  
意見：富田 氏の研究者としての自論等が出すぎている。話をしたいのはよく分かるが、もう少し控えた方が・・・
- ◎ 質問（→富田さん）：収穫量アップ・農家所得アップ・農業労働の効率化、これらはGM作物に切替えることで解決する。といった論調だが、GMでなくても可能なのでは？

◎ 質問（→芝池さん）：安全というのを大前提として、交雑に対しての不安がある中で現地（農家）におろす際にどういう提案をしていくのか？ 例えば、もち米産地が団地化して混入をおさえようとしているように地域を限定する等？ 現状だと一戸だけの作付けは難しいのでは？ 個人的には現状はなくてもいいのではないかとは思いますが、今後を考えると作らざるをえなくなる場面が出てくると思います。